

オーディオの総合月刊誌 **ステレオ**

stereo

2020
10

[第1特集]

次世代のメインストリーム

高音質ストリーミングを *High quality streaming* 体感せよ

「あの人はこうしてる」～ご自宅ストリーミング環境実例集 おまけ付き

[第2特集]

学生対抗スピーカー甲子園 前夜祭

デザイナー新 マランツNEW30シリーズ
デノン110周年記念モデルの全貌

新・短期連載「生形三郎“夢の”低音行脚」



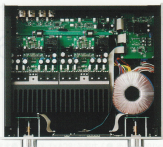
プリ・メインアンプ | アコースティックアーツ

POWER I

¥1,100,000

●出力(THD 0.1%):170W×2(8Ω)、260W×2(4Ω) ●全高調波歪率:0.015% ●SN比:97dB ●ダンピングファクター:700以上 ●入力端子:XLR×2、RCA×3 (INPUT5はメインダイレクト設定可能) ●入力インピーダンス:50kΩ(RCA)、50kΩ×2(XLR) ●出力端子:プリまたは録音×1、ヘッドフォン(標準)×1 ●スピーカー端子:1系統 ●消費電力:無信号時約60W ●大きさ:482W×145H×430Dmm ●重さ:約22kg ●問い合わせ先:ハイ・ファイ・ジャパン ☎03-3288-5231 ●ウェブサイト:<http://www.hifijapan.co.jp/>





入力はライン専用だがINPUT-5はメインダイレクトに設定可能
PRE OUTPUTは録音用の固定レベルにも切り替えられる

電源回路はパワー段とプリ部用を巻き線から分離独立
500VAのトroidalトランスと大容量コンデンサ搭載

質感高い中低域から低域 厚みあり低重心

白く美しいボディでフロントパネルにはヘアラインが施され、トップモデル機にふさわしい風格は先月取り上げたCDプレーヤーのPLAYEERと共通し、音質も同じ傾向を感じさせる。というのも重心を充分に下げた厚みのある中低域から低域の質感が高く、ナレーションやヴォーカルには身体全体に響いた重みを感じさせる。その厚みとバランスを取るべく、若干の派手さを感じさせる中高域はオーケストラの第1ヴァイオリンの明確な動きを聴かせ、金管打楽器は透過率の高い明るさで聴かせる。五重奏でのコントラバスやジャズのウッドベースなどもエネルギー感充分だが、輪廓感は決して強くない。トウティでのティンパニは明る感よりも量感の豊かさにつながるようだ。(石田 8)

柔らかくなめらかな表現 厚く質感密度濃い中低域

テストはRCA入力、電源ケーブルは付属なし。中低域のヴォーカル帯域はオッドトックスで厚く質感密度は濃く、スムーズな持続音の流れや声楽の温かく柔らかなニュアンスを表現する性能に特色を見ることができ。つまり、引き締まる低音や鮮明な解像力、コントラストの高い音を表現するタイプではないように感じる。柔らかくなめらかな音質を求めるのに適した傾向を基本的に備え、硬質感がない。ただ、この種の音質を好むとしても、高域特性や中低域のダンピングや分解力を改善して使うことが、この価格であるから必要だろう。その手段として電源ケーブルの検討は効果的である。簡単に持参したケーブルで試すと、繊細性を改善し可能性をさらに示してくる。(福田 15)

自然なヴォーカル表現 高い空間と音像の再現性

先月号で試聴したCDプレーヤーPLAYEERと同時に発売、同価格のプリ・メインアンプ。デザインイメージも共通で組み合わせたベストマッチ。出力段はバイポーラ・パワー・トランジスタの3パワーステージで出力は4Ω負荷で200W/chを発生。ダンピングファクターも700と充分に高い。機能はシンプルそのもの。左側のノブは人力切り替えでブック・ユースとそれ以外の機能が右側の音量調整用ノブと関連付けて操作でき、各動作モードが中央部のディスプレイに表示される。聴こえは優秀だ。人声はとも自然で子音や息継ぎに硬質感がなく、フォロテピアノの響きもナチュラル。オーケストラのみならず小編成の楽曲も中間再現性と音像の正確さが伝わってくる。(藤岡 15)

時間軸方向の分解能高く ニュートラルな音調

重心が低くスケールの大きな音を再現するアンプだが、低音楽器に過剰なエネルギーが乗ることなく、周波数バランスに偏りは感じられない。どの楽器も硬さが気になる音域がなく、基本的にはニュートラルな音調を追求している。ピアノやオーケストラを聴くと、時間軸方向の分解能が高く、音数が多いフレーズや内声も含め、動きを正確に再現していることに気付く。ピアノ五重奏は各楽器の音像が立体的でステージの広がりやリアルに再現、ヴァイオリンの高音にも張力感がなく、和音の純度が高い。コントラバスは低音の音域が充実し、アタックもクリアルだ。オーケストラの音場は広大だが密度が高く、散漫な空間にならない良さがある。リズムの切れが良いので躍動感に不満はない。(山之内 15)

本機は同社製品の大きな特徴の一つである天板に切り抜かれたロゴデザインを見直し、筐体のマスの向上を図った新たなTOPシリーズの第1弾となるプリ・メインアンプ。左右の真鍮にクロームメッキを施した大きなノブはそのまま継承されている。パワーアンプ出力段はバイポーラトランジスタの3パワーステージで、ダンピングファクターは700以上を確保。電源回路は500VAのトroidalトランスと大容量コンデンサで構成。パワー段とプリ部用は巻き線から分離されている。入力はXLR2系統、RCA3系統を装備するが、RCAの1つはサウンドデシステム対応のメインダイレクトに出来る。ノブのフィニッシュ機能併用により、左右バランス、入力ごとのゲイン設定、ディスプレイ輝度など9通りの設定が可能。